がん診療あさひ

7号
2020年10月発行

～がんと診断されたり、治療を受けるときに、役立つ情報をまとめました～

「がん看護相談外来」のご案内

『がん看護相談外来』では、専門的な知識を持った看護師が、各診療科医師などと連携を図りながら患者さんを支援しています。当院に通院中、入院中のがん患者さんやご家族の不安や困りごとに対して、解決の糸口を見つけられるよう一緒に考えていくものです。

対応看護師：がん化学療法看護認定看護師、がん放射線看護認定看護師、乳がん看護認定看護師、がん性疼痛看護認定看護師、緩和ケア認定看護師
日　時：火曜、木曜
予約枠：10 時、11 時、13 時
場　所：2号館2階緩和ケアチーム外来診察室
予　約：担当医からの依頼が必要です。

（がん化学療法看護認定看護師　金芳 佳子）

当院は、「地域がん診療連携拠点病院」に指定されています。

地方独立行政法人
総合病院 国保旭中央病院

〒289-2511 千葉県旭市イの1326　TEL.0479-63-8111(代)　FAX.0479-63-8580
www.hospital.asahi.chiba.jp

FDG-PET検査とは？

がんの患者さんにとって最適な治療法を選択するためには「がんの広がり（転移の有無）」を把握する必要があり、そのためには様々な画像検査が行われます。

FDG-PET検査は体のブドウ糖代謝を画像化する検査です。FDGはブドウ糖とそっくりな構造をした薬であり、注射すると全身のブドウ糖を欲しがっている細胞に取り込まれます。一般にがんの細胞はエネルギー源としてブドウ糖を多く使うため、FDGはがんが存在するところに集まる傾向があります。FDGは取り込まれた先で放射線を発する性質があり、この放射線をPETという機械で拾うことで、全身のどこでブドウ糖代謝が盛んなのかを写し出すことができます。

FDG-PET検査によって他の画像検査（CT、MRIなど）で見つからなかった病変（転移）が新たに見つかることがあります。反対に、転移と考えられていた病変がFDGを取り込まず、良性だと判明することもあります。このようにFDG-PET検査はより正確に「がんの広がり」を評価することができる検査であり、さらに当院では「半導体PET」という最新鋭の装置を導入してがんの患者さんの診療に大きく貢献しています。

PET画像診断センター長　鳥井原 彰

緩和ケアチームについて

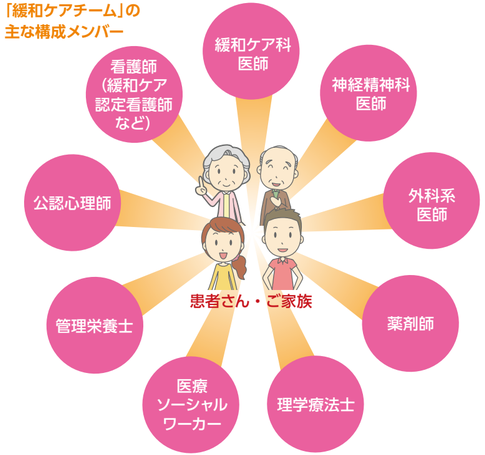
●今の日本では、がん診療に携わっている医療従事者であれば、「鎮痛薬の開始（医療用麻薬を含む）」や「相談部門への紹介」など、ある程度の「基本的な緩和ケア」は行うことができます。しかし、実際に多くの患者さんが苦痛を感じている、「鎮痛薬の調整に難渋する痛み」「複雑な問題が背景にある不安」「自分の存在が危うくなったと感じる時のつらさ」などは、「急を要する対応」や「複雑な対応」が必要となります。そのため、最近では、がん診療を行っている病院を中心として、全国の多くの病院に、多専門職種からなる「緩和ケアチーム」が設置され、いつでも「専門的な緩和ケア」が受けられるようになっています。

●当院の「緩和ケアチーム」には、緩和ケア科医師、神経精神科医師、外科系医師、薬剤師、理学療法士、医療ソーシャルワーカー、管理栄養士、公認心理師、看護師（緩和ケア認定看護師など）が参加しており、「患者さんのために今できること」を一緒に考えています。

●体や心のことで何かお困りでしたら、主治医や担当看護師を介して「緩和ケアチーム」にご相談ください。

※なお、本来、緩和ケアの対象は「がん」などの悪性疾患に限らないのですが、当院では現在、対象を「がん患者さん（当院に通院中、あるいは入院中）のみ」とさせていただいておりますので、ご相談される際にはご注意ください。

「緩和ケアチーム」の主な構成メンバー



がん相談支援センター

「がん」について、お気軽にご相談ください

「がん診療連携拠点病院」には「がん相談支援センター」が設置されています。

当院では、社会福祉士・看護師が相談に応じます。必要に応じて、医師・薬剤師・管理栄養士等と連絡を取って、お話を伺います。

〈相談例〉
●がんと言われて頭が真っ白になってしまい、誰かに話を聞いてほしい。
●どのように治療に取り組んだらよいでしょうか。
●がんの治療ってどのくらいお金がかかりますか？
●仕事を続けるのは無理でしょうか？
●介護が必要になったらどうしますか？
●緩和ケアについて知りたい。
など

「紹介患者センター」では、セカンドオピニオンについての相談に応じることができます。（医療機関検索・相談方法・費用、予約について）

がん相談支援センター
2号館1階　医療連携福祉相談室
時間／月～金（祝日を除く）8:30～17:15

相談は無料です。
※なるべく予約して頂くことをお勧めしています。
※当センターで医師と直接お話をすることはできません。社会福祉士・看護師がお話を伺い、担当医にご相談内容をお繋ぎすることは可能です。

がんと診断されても、すぐに仕事をやめないでください！

―― がん患者さんの就労支援について ――

がん治療と仕事を両立している患者さんはたくさんいます。

当院の『がん相談支援センター』には、がんの治療と仕事の両立について相談できる『両立支援コーディネーター』がいます。

がんと診断されて、すぐに退職を決めるのではなく、担当医や産業医とも相談しながら治療計画に合わせて、働き続ける方法を一緒に考えましょう。

まずは担当医・看護師にお声かけください。

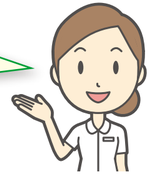
がん患者サロン　乳がん患者サロン　開催について

がん患者サロン
毎月第3月曜日
14:00～16:00
参加費　無料
事前申し込みは不要です。

乳がん患者サロン
毎月第3木曜日
14:00～16:00
参加費　無料
事前申し込みは不要です。

※今後の開催予定につきまして、詳細はお問い合わせください。

『がん看護相談外来』各認定看護師の役割の一部をご紹介します



◉ がん化学療法看護

抗がん剤治療開始前や治療中の副作用での疑問、生活上の困りごとなどについて伺いながら、どのように治療継続していくかを一緒に考えます。また治療継続に疑問がある場合など、その疑問が少しでも軽くなり、より納得できる治療選択ができるようサポートしていきます。

◉ がん放射線看護

多くの放射線治療ゴールは、予定通り治療を終了することですが、治療を受ける上で副作用が出現し、その副作用により生活の質（QOL）が低くなることもあります。治療室の看護師は、患者さんだけでなくご家族ともコミュニケーションを図り、生活背景を踏まえた個別性のあるサポートを心がけています。

◉ 乳がん看護

病気の診断時や告知の際に診察室に同席し、その後の心理的サポート、治療選択に迷った時の相談対応を行います。また手術や治療によって変化した外見へのサポート、生活面で困ったことへの対処など、皆様の不安や悩みに寄り添います。

◉ がん性疼痛看護

がんの痛みで使用する鎮痛剤で、知りたいこと、分からないこと、日常生活で困っていることなどご相談ください。また、がん告知される時に同席を希望される場合の対応や、告知後の患者さんとご家族のサポートを行っています。

◉ 緩和ケア

「がんと診断されて不安、誰かに話しを聞いてほしい」など、がんに関連して起こる気持ちのつらさをお聴きします。誰かに話しをすることで気持ちが楽になる、気持ちが整理できるということがあります。また『緩和ケア』がどのようなものか、『緩和ケア病棟』がどのような病棟かの情報を提供することができます。

がん化学療法看護認定看護師　金芳 佳子

当院の治療や医療のご紹介

多面的な治療で、患者さんを支えます

手術療法について

手術療法とは、がんを切り取って治す治療法です。がんを完全に治すための治療法として、ほとんどの場合手術療法が選択されます。

手術はからだに負担のかかる治療法ですので、これをなるべく軽くするためにいろいろな手術が開発されています。胃カメラなどの内視鏡による手術では、皮膚にメスを入れることなくがんを切除できます。また、腹腔鏡や胸腔鏡による手術では、従来の開腹や開胸による手術に比べてずっと小さな傷でがんを切除することができます。

現代の手術療法は、チーム医療として行われます。たとえば、手術に加えて抗がん剤や放射線を併用する場合は、外科・内科・放射線科が一緒に治療にあたります。また、術前の準備段階から術後の回復期まで、外科医・麻酔医・看護師・薬剤師・理学療法士など多くの職種の人たちがチームとして診療に加わり、患者さんが安全に手術療法を受けられるような体制が作られています。

（外科　永井）

緩和ケアについて

- 「治療」には、「『病気』の治療」と「『症状』の治療」があり、それらは必要に応じて同時に行われます（『病気の治療』が『症状の治療』を兼ねる場合もあります）。「病気の治療」は、副作用などのために、体の具合によってはできなくなることもありますが、「症状の治療」は、「病気の治療」をしているかどうかに関係なく、体の具合に応じて「その時にできること」が必ず何かあります。
- 「緩和ケア」とは、「病気が分かった時」「『病気の治療』をしている時期」「『症状の治療』が中心となった人生の最終段階」と、病気の種類や時期に関係なく、患者さんや患者さんを支えるご家族が抱えている「体や心のつらさ」を軽くする医療です。
- 「緩和ケア」には、「症状の治療（鎮痛薬の調整など）」「様々なケア（看護ケアだけでなく、社会生活や経済面での不安に関する相談なども含まれます）」「療養環境の整備」など様々な関わり方があり、いずれも患者さんの生活の質（QOL）向上につながり、患者さんが自分らしく生きていくことを支えます。

（緩和ケアセンター　齋藤）

患者さん

放射線治療について

治療の特徴

X線や放射性物質が出すビームを利用して、手の届かないところに治療ができるという特徴があります。各診療科、画像診断部門と協力して問題を見つけ、解決を目指しています。

- 外照射
  - 一般的な外照射（ほぼ全身が対象で乳房温存療法、食道癌、骨転移など）
  - 高精度治療　IMRT 強度変調放射線治療（前立腺癌など）、定位放射線治療（脳腫瘍、肺癌、肝臓癌など）
- 腔内照射（子宮癌）
- 内用療法　ゾーフィゴ注（骨転移）、ゼヴァリン注（悪性リンパ腫）

（放射線治療科　太田）

化学療法センターでの治療について

「手術」「放射線治療」と並んで、がん治療の３本柱のひとつに「化学療法」があります。近年、新しい抗がん剤の開発や副作用を軽減する支持療法の進歩などにより、治療効果が向上し、標準化された化学療法が適用されるようになりました。このように**有効な化学療法を多くの患者さんが受けるようになり、生活の質（QOL）が重視されるようになったことから化学療法は外来治療が中心となり、安全で質の高い医療の提供の場として化学療法センターが設立され全科の治療がここに集約されています。**化学療法センターの病床数は40床（リクライニング８、ベッド32）あり、スタッフはがん化学療法看護認定看護師１名を含む看護師７名と医師１名が常駐しています。1人の患者さんを包括的に支えていく上での治療やサポートの質を高めるために医師、看護師、薬剤師、栄養士、歯科衛生士、リハビリ療法士によるチーム診療を行ない、すべての患者さんに満足していただけるよう心がけています。

（化学療法科　中村）